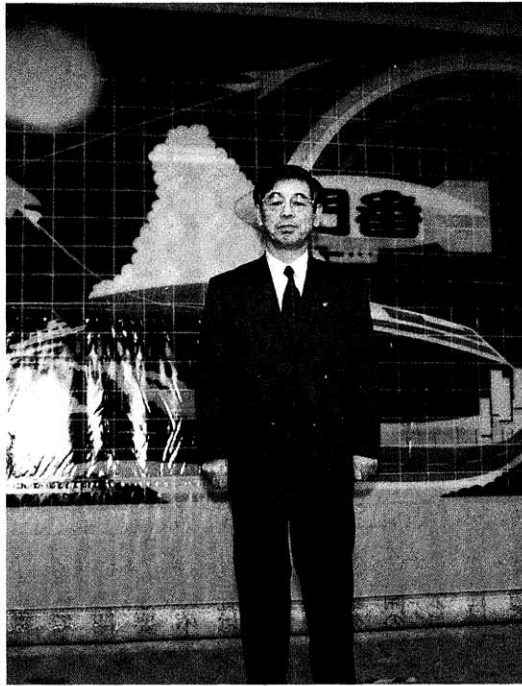


自動制御技術で「工場改革」と「環境変革」に挑む

神話で知られる出雲の国・鳥根県八雲村にある小松電機産業は、自動制御技術を駆使した高速シートシャッターや、集落排水制御システムなどの開発を基礎に、共生社会の創造を目指して「社会変革産業」のネットワーク化に挑戦する。

小松電機産業社長 小松昭夫氏に聞く／聞き手 本誌編集長 小野塚秀男



こまつ・あきお 1944年鳥根県生まれ。52歳、工業高校機械科卒。地元の佐藤造機（現・三菱農機）に入社。技術・設計の研究開発に従事8年後退社。大阪の設計事務所勤務などを経て73年2月、自宅の納屋で修理業を開業。82年小松電機産業設立。85年シートシャッター「門番」開発、89年異業種企業7社で協同組合「テクノくびき」設立、92年集落排水計測・制御・監視システム「やくも水神」発表。資本金1億円、年商35億円、従業員85名。

高速シートシャッター「門番」が大ヒット

「独立のいきさつを教えてください。」
小松 私は高校を卒業後、佐藤造機（現三菱農機）に就職、技術・設計畑の研究開発に従事していました。地元では唯一

全国規模の農耕機製造大手会社でしたが、八年後、同社は急成長の果てに会社更生法の適用を受けることになりました。それを機に私は八年間の会社生活で得た電気や機械の知識、技術力、人脈などを活用して独立する決心をしました。が、經理のことやマネジメントのこと、とに

かく伝票の書き方一つ知らない状態だったので、大阪に出て二年間、設計事務所や商社で働き、販売のことやさまざまなことを学んできました。

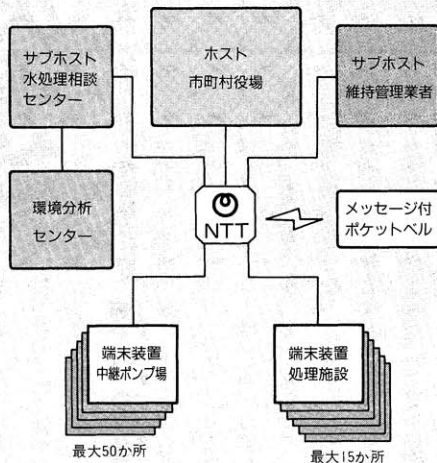
——独立された当時はどんな状況だったのですか。

小松 一九七三年一月一日、資金一〇万円を元手に弟と二人で自宅の納屋を使ってワゴン車一台で修理業を始めました。当初は農業用水などに使われる取水ポンプの修理を請け負いました。一方では上



「NEWやくも水神」ホストコンピュータ

上下水道のトータルネットワークシステム「やくも水神」概略図



水・下水関係の制御・計装についての研究開発をコツコツとやっております。やがてポンプの販売、さらに水量・水質の変化に応じて水門の開閉やポンプの作動を自動的に行う「水の自動制御装置」、それから電気制御システムの販売なども手がけてきました。

——社業発展のきっかけとなったのは工場用高速シャッターの開発ですね。

小松 一九八〇年に旧佐藤造機から依頼されてビニール製の工場用高速シャッターを開発しました。完全なオーダーメイドでしたが、私は当初から一般向けの商品化を考えていました。ただ、会社の体力がなかったので時期を待つことにしたのです。五年後の一九八五年にオリジナル商品の高速シートシャッター「門番」を開発、発表。工場を車両が通過するたびに瞬時に巻き上げられる特長、防塵・

